総括班　X00　(課題番号：06208102)

沖縄の歴史情報研究

研究代表者：岩崎宏之・筑波大学・歴史･人類学系・教授

１．研究項目：X00　研究の総括

２．研究課題名：沖縄の歴史情報研究(課題番号：06208102)

３．研究期間：平成６～９年度（1994～1997）

４．交付研究費：平成６年度　27,000 千円
平成７年度　41,500 千円
平成８年度　36,300 千円
平成９年度　29,000 千円　　合計　133,800 千円

５．研究組織(氏名：所属機関・部局・職)
研究代表者：岩崎　宏之（筑波大学・歴史･人類学系・教授）（領域代表者）
研究分担者：神田　信夫（明治大学・名誉教授）（評価担当）
同　梅原　　郁（就実女子大学・文学部・教授）（評価担当）
同　根岸　正光（学術情報センター・研究開発部・教授）（評価担当）
同　金城　正篤（琉球大学・法文学部・教授）
同　川勝　賢亮（九州大学・文学部・教授）
同　勝村　哲也（京都大学・人文科学研究所・教授）
同　石上　英一（東京大学・史料編纂所・教授）
同　星野　　聰（京都大学・名誉教授）
同　石田　晴久（東京大学・名誉教授）
同　喜屋武盛基（沖縄大学・法経学部・教授）
同　高橋　延匡（東京農工大学・名誉教授）
同　島崎　真昭（京都大学・工学部・教授）
同　坂口　　瑛（筑波大学・電子･情報工学系・助教授）
同　柴山　　守（大阪市立大学・学術情報総合センター・教授）
同　桶谷猪久夫（大阪国際女子大学・人間科学部・教授）
同　並木美太郎（東京農工大学・工学部・助教授）

同　　夫馬　　進（京都大学・文学部・教授）（平成９年度）
同　　小南　一郎（京都大学・人文科学研究所・教授）
同　　松岡　栄志（東京学芸大学・教育学部・助教授）
同　　松本　浩一（図書館情報大学・図書館情報学部・助教授）

６．研究目的

実証的な歴史研究にとって史料の情報化は不可欠であり、いまやその有効利用についてはコンピュータの活用が必須となっている。沖縄においては、明治期以来の県外流出や戦禍のために多くの歴史的遺産が失われたが、その復元のために非常な努力が払われてきた。また史料の公刊にも多大の情熱が傾けられた結果、地域の歴史情報の集積としては、日本の他の各地域に比べても遜色がないほどの域に達することが出来た。またマイクロフィルムなどによって沖縄に収集された史料も膨大な集積となったが、史料が大量に集積されたことの結果としてその総括的把握がきわめて困難な状態に立ち至っているという事情もある。これらの膨大な歴史資料を活用し、しかも散逸して各所に散在している歴史資料を掘り起こして収集し、これらを統合・組織化するにはコンピュータの利用が不可欠である。われわれは琉球・沖縄史研究の進展にとって歴史情報資源の活用はきわめて緊急かつ有な手段であると考えているが、本研究は、これまでの琉球・沖縄史研究の成果の基礎の上に、各種の歴史資料を包括的に調査収集し、関係資料の情報化と集積を進めて統合的把握を可能にすることを企図している。このような視点にたって、本研究領域は歴史研究へのコンピュータの本格的導入を目指しつつ、失なわれた琉球・沖縄の文化遺産としての歴史資料の復元を図る。

琉球・沖縄の歴史資料は多様な言語によって構成されており、文献資料研究へのコンピュータ利用の実験的試みにとってまことに興味ある問題が多い。歴史資料としての琉球・沖縄の文献には漢文、和文はもとよりフランス語、英語、オランダ語、シャム語などさまざまな言語による文字資料があり、しかも時代的に変遷する歴史資料としての特質を有している。これら多様な言語・文字による各種歴史資料をひとつのテーブルで検討するための情報化の試みが必要なのである。漢字文化圏を対象とする東洋学研究へのコンピュータ利用にとって大きな制約となる漢字処理の問題についても、多様な、かつ時代的に変化を重ねている琉球・沖縄の歴史資料の情報化は、そのための試みの場としてまことに恰好な領域といえよう。

本研究課題は重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」の総括班として領域研究全体にわたる研究内容の方向性を定め、また研究全体の推進・総括を行なう。また本総括班のもとに「研究支援応用情報システム」の各研究グループを置き、歴史資料の統合的把握のための情報システムを整備する。研究代表者、研究支援応用情報システム連絡会議を開催し、また研究集談会、研究打合せ会、シンポジウム等を適時に開催して研究の相互交流の促進と研究成果の公開につとめる。また領域研究全体の調整と連絡のために研究情報、技術情報、諸研究会・研究集会開催の案内などを掲載したニューズレターを定期的に発行する。総括班は、各研究班によって調査・収集された各種歴史情報の統合をはかり、琉球・沖縄史関係資料を網羅した「研究文献情報データベース」ならびに「史料所在情報データベース」の作成にあたる。総括班に置かれた「研究支援応用情報システム」の研究グループは、各研究班と連携を緊密にして情報システムの整備につとめた。とくに画像データベースの研究では計画研究「琉球・沖縄の歴史的文物の情報化」の研究班と連携してイメージプリンタ FDIP6200 を利用した画像データベ

ース「琉球史料集成」を構築するための研究開発に当った。

７．研究実施計画

総括班は重点領域全体の調整と連絡に当るとともに、本重点領域研究の各研究班によって調査・収集された各種歴史情報の統合と研究支援応用情報システムの整備につとめる。

①重点領域全体の調整と連絡のために、研究情報、技術情報、諸研究会・研究集会案内などを掲載したニューズレター「沖縄の歴史情報」を発行する。また研究班相互の連絡・研究交流の迅速化をはかるために、速報版ニューズレター「飛船」を臨機に発行する。

②本重点領域研究全体にわたる方向性は総括班・研究代表者会議によって定める。そのために総括編ならびに計画研究・公募研究の研究代表者等による研究会議を適時に開催する。

③総括班主催「沖縄の歴史情報」研究会を定期的に開催し、研究の交流を進める。

④情報システム連絡調整会議を適時に開催し、研究支援応用情報システムの効果的な運用を図る。また研究代表者・研究分担者が一堂に会する全体会議を開催する。

⑤総括班ならびに各研究班相互の連絡と研究情報の交流を図るため、随時研究打合せ会を開催する。研究打合せ会、シンポジウム等を開催して研究の相互交流を促進する。

⑥総括班は、本重点領域研究の各研究班によって調査・収集された各種歴史情報の統合をはかり、「研究文献情報データベース」ならびに「史料所在情報データベース」の作成にあたる。

⑦総括班に置かれた「研究支援応用情報システム」の各研究グループは、各研究班と連絡を緊密にして情報システムの整備・強化につとめる。とくに計画研究「琉球・沖縄の歴史的文物の情報化」の研究班と連携してマイクロフィルムによる収集資料の有効利用をはかり、16㎜マイクロフィルム・カートリッジから必要なコマを検索し、印刷できるディジタル方式のイメージプリンタ FDIP6200 を利用した画像データベース構築のための研究開発に当る。

⑧「研究支援応用情報システム」の漢字処理システムの研究グルールは、歴史資料の情報化に必要な文字コード・辞書システムに関する研究を進め、文献史料の印刷に不可欠な異体字フォントを含む辞書システムの実用化を図る。

⑨「研究支援応用情報システム」のネットワーク研究グルールは、計画研究の拠点となる筑波大学、東京大学、京都大学、九州大学、琉球大学等を結ぶネットワークを整備する。

８．研究経過と成果

平成６年度

本研究は、沖縄を東シナ海世界の国際社会のなかに位置付けて地域間交流の具体的様相を明らかにする歴史資料の情報化をすすめ、また東シナ海を取り囲む諸民族いわゆるアジアニーズの歴史的変貌を実証的に解明することを意図している。本研究班は、総括班として領域研究全体にわたる研究内容の方向性を定める役割を担い、また本研究を構成する各研究班との連絡、調整等を行なった。研究初年度の本年度にあっては、まず研究プロジェクト全体の立ち上がりのための連絡調整に意をそそぎ、研究代表者会議、総括班会議等の研究打ち合せ会を頻繁に開催して各研究班の研究進展状況の確認や研究情報の交流を行った。また研究の方向性を確認、協議し、研究の相互交流の促進をはかるための「総括班研究会」(京都教育文化センター、沖縄県立図書館、沖縄国際大学)を開催したほか、東京大

学史料編纂所所蔵島津家文書の見学会、東京大学史料編纂所や国立民族学博物館情報システム等の見学会などを開催し、有益であった。

本研究プロジェクトの広報手段として、総括班では研究情報、技術情報、諸研究会・研究集会開催案内などを掲載したニューズレター「沖縄の歴史情報」（第３・４号）と速報版ニューズレター「飛船」（第１号～第７号）を発行した。

総括班は、各研究班によって調査・収集された各種歴史情報の統合をはかり、「研究文献情報データベース」ならびに「史料所在情報データベース」の作成にあたった。本年度は「沖縄歴史関係論文目録」（『沖縄史料編集所紀要』所収）、『琉球文献目録』（琉球大学付属図書館発行）などを底本としてデータベース化をすすめたほか、新城安善編著『沖縄書誌総覧　―沖縄書誌の書誌―』についても電算入力を完了した。

本総括班の「研究支援応用情報システム」研究グループは、定例的に研究会を開催して本領域研究全体にわたる情報システムの整備をはかった。研究会では漢字処理、かな漢字変換システム、沖縄歴史情報データベースの構造などをテーマに取り上げて検討した。また画像データベース研究については、計画研究「(A031)琉球・沖縄の歴史的文物の情報化」と連携して、富士写真フィルム(株)社製イメージプリンタ FDIP6200・SCSI インタフェースユニット MS10 を購入して画像データベース構築のための研究開発に当った。

平成７年度

研究第２年度の本年度にあっては、領域研究全体の推進に意をそそぎ、総括班会議、研究代表者会議等の研究打ち合せ会を頻繁に開催して各研究班の研究進展状況の確認や研究情報の交流を行った。また総括班研究会は沖縄国際大学(７月)、ｱﾋﾟｶﾙ･ｲﾝ･京都・くに荘(７月)、沖縄県公文書館(８月)、国立教育会館(11 月)、名瀬市立博物館(平成８年１月)などで開催して研究の相互交流の促進をはかった。

本研究プロジェクトの広報手段であるニューズレター「沖縄の歴史情報研究」は第５号を発行した。速報版ニューズレター「飛船」は第８号から第 16 号までを発行し、研究情報、技術情報、諸研究会・研究集会開催案内などを紹介した。さらに本年度は大阪国際女子大学、琉球大学、九州大学、東京農工大学、東京大学史料編纂所を結ぶ情報ネットワークを整備し、WWWサーバーによるホームページを開設して研究成果の発信を開始した。

本研究班は領域研究の総括班として各研究班によって調査・収集された各種歴史情報の統合・集積をはかり、琉球・沖縄史関係研究文献情報データベースならびに琉球・沖縄史関係史料所在情報データベースの作成にあたった。また計画研究「琉球・沖縄の対外関係史」（研究代表者：金城正篤琉球学教授）と共同して「歴代宝案」のテキスト検索データベースの開発にあたり、成果を得た。総括班の「研究支援応用情報システム」研究グループは、定例的に研究会を開催して本領域研究全体にわたる情報システムの整備をはかり、また領域の各研究班からの要請によって歴史資料情報化に関する諸問題点の解決に務めた。研究会では漢字処理、かな漢字変換システム、琉球・沖縄史に関する各種情報データベースの構造解析などをテーマに取り上げて検討した。画像データベースの研究では計画研究「琉球・沖縄の歴史的文物の情報化」と連携して富士写真フィルム(株)社製イメージプリンタ FDIP6200 システムによる画像データベース構築のための研究開発を継続した。

平成８年度

研究第３年度の本年度にあっては、領域研究の推進と全体の連絡調整に意をそそぎ、総括班会議・

研究代表者会議等の研究打ち合せ会を頻繁に開催して各研究班の研究進展状況を確認し、研究情報の交流をはかった。また総括班研究会を国立教育会館(６月)、鹿児島大学(６月)、筑波大学(７月)、沖縄国際大学(８月)、長崎県立図書館・平戸市離島開発総合センター(９月)、岡山県牛窓町役場・鞆の浦歴史民俗資料館(11 月)、富士フイルム株式会社本社ホール(12 月)などを会場として頻繁に開催、研究成果の発表や研究者の相互交流を推進した。

本研究プロジェクトの広報手段としてニューズレター「沖縄の歴史情報研究」(第６号)と速報版ニューズレター「飛船」(第 25 号まで)を発行し、さらにWWWサーバーによるホームページによる情報ネットワークを充実して研究進展状況に関する情報を提供した。

また本研究班は、領域研究の各研究班によって調査・収集された各種歴史情報の統合・集積をはかり、琉球・沖縄史関係研究文献情報データベースならびに琉球・沖縄史関係史料所在情報データベースの作成にあたった。琉球・沖縄史関係研究文献情報データベースの作成に関しては、おおよそ６万レコードのデータ入力を完了した。計画研究「琉球・沖縄の対外関係史」（研究代表者：金城正篤琉球大学教授）と共同で進めている「歴代宝案」テキスト検索システムの開発はほぼ完成した。また計画研究「琉球・沖縄の歴史的文物の情報化」(文物班)と連携して研究開発を進めてきた画像データベース「琉球史料集成」の構築は、大阪市立大学学術情報総合センターのWWWサーバーによる検索システムの試験的供用を開始した。

平成９年度

平成９年度は本領域研究の最終年度であり、平成６年度以降の研究成果の取りまとめにあたった。琉球研究の研究成果を点検して相互の交流をはかるための総括班研究会を大阪市立大学学術情報総合センター、東京大学史料編纂所、沖縄県公文書館・沖縄国際大学・東京大学東洋文化研究所・京都大学人文科学研究所等を会場として開催し、研究成果の発表をおこない、今後の問題点を点検した。また総括班・研究代表者会議や研究打ち合わせ会議を重ねて領域研究の研究成果の公開・提供の方策について協議した。ニューズレター「沖縄の歴史情報研究」は第７号を発行、速報版ニューズレター「飛船」とともに本領域研究の広報手段として相互の連絡・研究交流につとめた。WWWサーバーのホームページも一段と内容が充実して研究進展状況に関する情報を提供した。

平成６年度以降の本領域研究の調査によって、東京大学史料編纂所、内閣文庫、沖縄県立図書館、琉球大学、沖縄国際大学南島文化研究所、沖縄県立図書館、筑波大学付属図書館、鹿児島大学付属図書館、鹿児島県尚古集成館、ハワイ大学宝玲文庫等に収蔵されてきた琉球・沖縄史関係史料、環シナ海地域間交流史関係資料が調査・収集され、史料所在状況が把握されてきたが、これらの収集資料・情報は総括班に集積され、総括的に把握するためのデータベースの作成がすすめられた。最終年度である本年度は、これら収集史料、収集マイクロフィルム目録の作成につとめ、また琉球・沖縄史関係各種文献情報データベースの整備をすすめた。

9.広報誌の発行

(１)ニューズレター「沖縄の歴史情報」の発行

本領域研究の広報誌として発行、関係者に配布した。第１号・第２号は「プレ・ニューズレター」の名称で発行、第３号よりニューズレター「沖縄の歴史情報」と改題）

第１号　　平成５年９月 15 日発行

第２号　　平成６年１月10日発行
第３号　　平成６年10月１日発行
第４号　　平成７年１月15日発行
第５号　　平成７年７月20日発行
第６号　　平成８年７月１日発行
第７号　　平成９年９月１日発行

(２)速報版ニューズレター「飛船」

平成６年９月より不定期に発行、領域研究内部の広報として主として研究代表者、研究分担者、研究協力者に配付している。第１号から第３号までの名称は「速報版　NEWSLETTER」、第４号から「飛船」と改題。「飛船」とは火急の際に琉球の島嶼間を往来した「飛鯲船」のこと。）

第１号　　平成６年９月15日発行
第２号　　平成６年10月15日発行
第３号　　平成６年11月15日発行
第４号　　平成６年12月15日発行
第５号　　平成７年１月15日発行
第６号　　平成７年２月15日発行
第７号　　平成７年３月31日発行
第８号　　平成７年４月30日発行
第９号　　平成７年５月31日発行
第10号　　平成７年６月30日発行
第11号　　平成７年７月31日発行
第12号　　平成７年８月31日発行
第13号　　平成７年９月25日発行
第14号　　平成７年10月31日発行
第15号　　平成７年12月18日発行
第16号　　平成８年２月10日発行
第17号　　平成８年４月10日発行
第18号　　平成８年５月１日発行
第19号　　平成８年６月１日発行
第20号　　平成８年７月１日発行
第21号　　平成８年８月１日発行
第22号　　平成８年９月20日発行
第23号　　平成８年10月15日発行
第24号　　平成９年１月８日発行
第25号　　平成９年５月１日発行
第26号　　平成９年８月10日発行
第27号　　平成９年10月29日発行
第28号　　平成９年12月24日発行

第29号　　平成10年2月23日発行
第30号　　平成10年3月31日発行